

第2学年1組 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 平成25年10月17日

授業者 教 諭 島 村 勲

場 所 2 年 1 組 教 室

1 単元名 日本の諸地域 「中国・四国地方」

2 単元について

（1）教材観

本単元は、地理的分野内容（2）「日本の様々な地域」の中項目ウ「日本の諸地域」を受けて設定した。ここでは、「事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを通じて、社会的な見方や考え方を養う」（中教審答申）ことを踏まえ、日本をいくつかの地域に区分し、「自然環境」「歴史的背景」「産業」「環境問題や環境保全」「人口や都市・村落」「生活・文化」「他地域との結びつき」など、地域の特色ある事象や事項を中核として、それを他の事象と有機的に関連づけて追究する学習活動を通して、地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。したがって、地域的特色を追究するための適切な課題を設定し、様々な資料を適切に活用して地域的特色を考察し、追究した過程や結果を適切に表現するといった活動を、生徒に実際に取り組ませるようにすることが大切である。

今回取り上げる小単元「中国・四国地方」は、中国山地と四国山地、それに瀬戸内海という自然環境によって人や物資の移動は制限を受けてしまっているように見える。しかし実際は、瀬戸内海は都のあった近畿地方と九州地方や大陸を結ぶ重要な交通路として古くから発展していた。戦後は中国自動車道、山陽自動車道、山陽新幹線の開通、本州四国連絡橋の設置、各県における空港の設置というように、人々の努力で厳しい自然環境による移動の制限を克服してきており、それに伴って人や物資の移動も活発に行われるようになってきた。そして、そのような交通網の発達によって他地域との結びつきを強めることで、人々の生活や産業も大きく変容してきている。

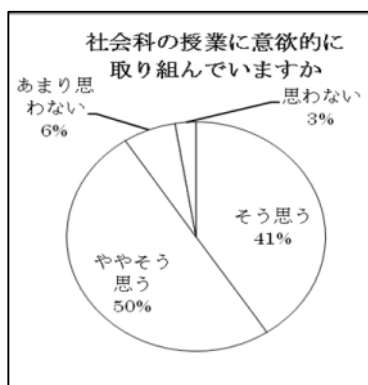
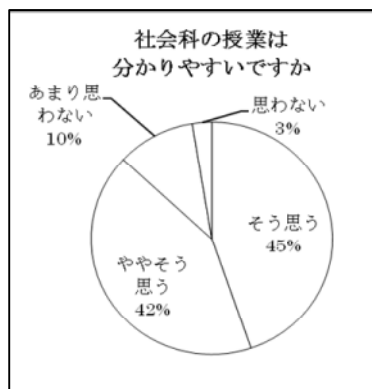
また、中国・四国地方は、全国でも有数の過疎化が進んだ地域でもある。過疎地域においては、厳しい自然環境に加え、少子高齢化という現実と直面し、生活の維持が困難な限界集落も多数見られるようになってきている。しかし、そのような中でも、情報網の発達を生かして大きく成長している町や村もあり、少子高齢化や過疎化が今後さらに進むと考えられるこれからの日本社会の一つのモデルとして注目されている。

以上のようなことを踏まえ、「他地域との結びつき」という地理的事象を中核とし、他の諸事象と有機的に関連づけて地域的特色を追究していく。他の諸事象とは、生産地と消費地の間の物資の移動の特色、石見銀山などの観光地の成立と観光客の移動といった人々の移動の特色、道路や鉄道の開通に伴う通勤圏の変化などとする。そして「交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか」という課題を設定し、他地域との結びつきの影響を受けながら地域が変容していることに気づかせ、それをこれからの自分たちの生活にも結びつけて考えさせていきたい。

（2）生徒観

年度末に行った学校評価アンケートから、概ね社会科の授業に意欲的に取り組んでいることが分かる。学習規律も確立しており、新しいことを積極的に学習していこうとする態度も顕著である。一方、今回行ったアンケート（10月3日実施）からは、たくさんの課題があることが分かる。

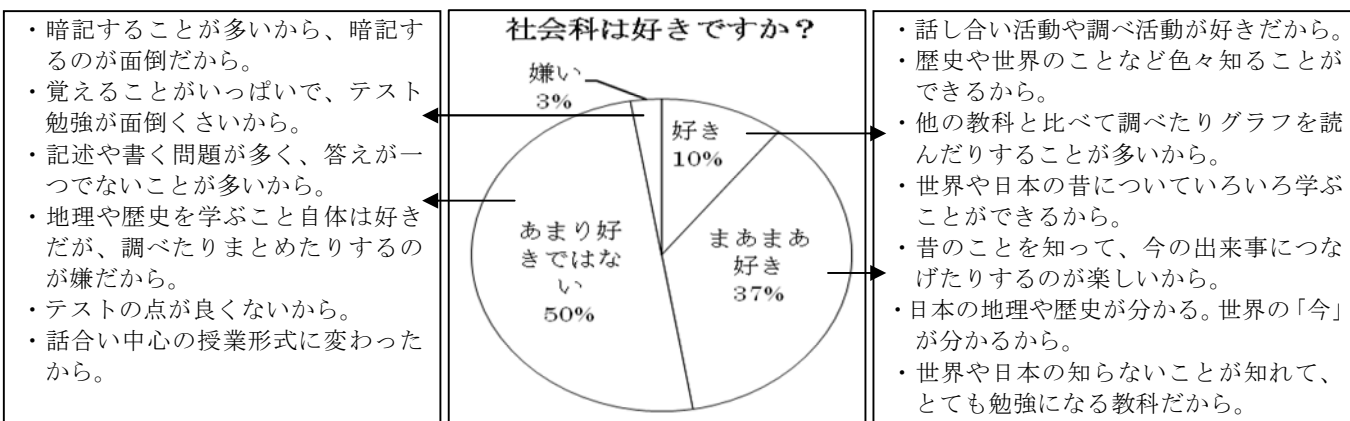
H24 年度 学校自己評価 生徒アンケートより



社会科アンケートより（H25、10、3実施）

（調査実施人数 38 人）

（1）社会科は好きですか？ その理由は？



（2）社会科では、どのような授業が好きですか？（複数回答可）

- | | |
|--------------------------------|------|
| ① 表やグラフ、写真などを読み取る学習 | 7 人 |
| ② パソコンや本などで調べる学習 | 9 人 |
| ③ 新聞やレポートなどに調べたことや自分の考えをまとめる学習 | 7 人 |
| ④ 友達と話し合ったり意見を交換したりする学習 | 16 人 |
| ⑤ 調べたことや話し合ったことを発表する学習 | 2 人 |
| ⑥ 先生の説明や板書を中心とする学習 | 18 人 |

（3）地理と歴史、どちらが好きですか？

地理の方が好き（15 人）	歴史の方が好き（23 人）
・歴史より将来役に立つと思うから。 ・歴史は年号など覚えることが多く難しいから。 ・今現在起きていることが分かるから。 ・世界の国々のことが分かるから。 ・歴史は暗記が多いが、地理は考えることも多いから。 ・歴史は文章が多いが、地理は図や表を読み取れば分かるから。 ・世界や日本のことについてよく知ることができ、深いところまで考えることができるから。	・歴史は関連づけて覚えられるが、地理はそうではないから。 ・地理より歴史の方がストーリーがあって面白いから。 ・歴史は表やグラフなどがないから。 ・地形などが覚えにくいから。 ・地図と地名が全然一致しないから。 ・地理はグラフや表を読み取らなければいけないから。 ・歴史は今に至るまでの日本について学ぶことができるから。 ・歴史は昔の日本について学べるが、地理は自分に関係ないことまで学ぶから。

(4) 中国四・四国地方に行ったことはありますか？

・はい (7 人) いいえ (31 人)

(5) 中国・四国地方について、知っていることを書いてください。

長曾我部元親の像がある／香川はうどんがおいしい／東西に延びている／過疎化が進んでいる
原爆ドームがある／出雲大社／鳥取砂丘／山口のふぐ／広島のもみじまんじゅう／岡山の吉備団子
徳島の霊山寺／阿波踊り／高知のかつお／愛媛のミカン／香川の大窪寺
島根県の認知度は一番低い／塩／レモン／瀬戸大橋／鳴門の渦潮／最後の清流四万十／沈下橋
割子そばがおいしいです／宍道湖でしじみがとれる など

アンケート結果から、社会科の授業には意欲的に取り組んでいるものの、社会科があまり好きではない生徒が半数を占め、その理由として「暗記が苦手」「覚えることが多い」という答えが最も多かった。定期テストはやはり知識を問う問題が6割と半数以上を占めており、思考力を問う2割の問題も、知識がないと解けない問題となっていることが多い。また、授業で扱った思考力を問う問題は、テストでは単なる知識を問う問題となってしまうのではないかという疑問も残る。やはり、テストの形態そのものを大きく転換しない限り、暗記教科という枠を超えられないのではないかと思う。

地理の授業では、図や表、グラフを読み取る学習やそこから考えられることを追究する学習を積極的に組み入れてきた。アンケート結果から、地理が好きな生徒はそのような学習活動が好きであり、好きではない生徒はそのような学習活動を苦手としている傾向がある。今後も資料読み取りの活動をこれまで以上に丁寧に進めていきたい。

また、アンケート結果からは「先生の説明や板書を中心とする学習」を好む生徒が半数近くを占めていることが分かる。一方で、「友達と話し合ったり意見を交換したりする学習」が好きであると答えた生徒が多かった点は、今後の授業改善に生かしていきたい。今回の協同学習の手法を取り入れた授業は、まさに友達と話し合い、意見交換をしながら進める学習であり、これによって社会科に対するイメージを転換できるのではないかと考える。そして、今後の定期テストにおいても、これまでのテスト形態を大きく変え、社会科好きな生徒を増やしていきたい。

なお、生徒は夏休みに自然体験研修として、群馬県みなかみ町で2泊3日の民泊をし、農業体験をしてきている。そこでは、「農業」というテーマのもと、みなかみ町の過疎化や農業の後継者問題について事前調査、現地での聴き取り調査、そして文化祭でのまとめの発表という学習をしている。従って、過疎地域の現状や課題、活性化の取組などは理解しており、そういった学習の成果を踏まえつつ、授業展開していきたい。

(3) 指導観

「日本の諸地域」の学習では、単元を通じて協同学習の手法を取り入れながら授業展開していく。各小単元において、地理的事象を見出す導入段階では、個人→グループ→クラスというように、学習集団の大きさを広げていく。

地域的特色を追究する段階では、中核となる地理的事象と関連づける地理的事象を3～4つ用意し、それらをエキスパート活動で追究していく。

ジグソー活動では調査結果を発表しあい、それらをマインドマップやイラストマップにまとめる活動を通して地域的特色を追究していく。

クロストーク活動では、ジグソー活動でまとめた作品をポスターセッション形式やパネルディスカッション形式で発表しあい、他のグループの良いところを自分たちの発表内容に取り入れるなどしながら、最終的には各自で地域的特色をまとめたミニレポートを作成させていく。

(4) 研究テーマとのかかわり

研究テーマ：「思考力、判断力、表現力の育成を目指した協同学習の手法を用いた学習指導の充実」

本研究では、協同学習の手法を用いた学習指導を展開する中で、21世紀型スキルといわれる「創造力」「批判的思考力」「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「ICT活用能力」などのスキルを身につけさせていきたい。本小单元では、特に「コミュニケーション能力」と「コラボレーション能力」の獲得に重点を置いて指導していく。そして、それらの能力の獲得過程で、思考力、判断力、表現力も身につけていくものであると考える。

【仮説】

協同学習の手法を取り入れ、コミュニケーション能力やコラボレーション能力を獲得する中で、思考力、判断力、表現力等の育成も図ることができるのではないかと考える。

【手だて】

①エキスパート活動において

- ・各自で資料を読み込んで得られた事実と考えを他のメンバーと共有し合う。
- ・共通点と相違点などを確認しながら、一つの答えを話し合いを通じて導き出していく。
- ・分からない点については教え合いをしたり、分担して調査などをする。

②ジグソー活動において

- ・エキスパート活動でのまとめを発表し合い、分からない点は必ず質問する。
- ・マインドマップを作成するときは、何が必要な情報かを、話し合いを通して決定する。
- ・ポスターセッションの発表練習では、互いの発表方法の良い点、悪い点を指摘し合う。

③クロストーク活動において

- ・ポスターセッションの発表では、聞き手を巻き込んだ発表方法など工夫する。
- ・事象の特色や事象間の関連など、分かっていることでも意図的に質問し、説明させる。

3 小单元の目標と評価規準

(1) 目標

交通・情報網の発達による他地域との結びつきを中核として、物資や人々の移動の特色や変化などに関連付けて追究させ、中国・四国地方の地域的特色を理解させる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
他地域との結びつきを中核とした考察の仕方を基に、中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	中国・四国地方の地域的特色を、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	中国・四国地方の地域的特色に関する様々な資料から、中国・四国地方の地域的特色について読み取ったり図表などにまとめたりしている。	中国・四国地方について、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

4 小単元の指導計画と評価計画（6時間）

過	時	学習活動と学習内容	・指導上の留意点 ●言語活動の充実 ◎評価規準・方法
課題把握	1	○地図帳を見たり、これまでの学習を振り返るなどして、中国・四国地方の地理的事象を見出す。	・地図帳の一般図から価値ある地理的事象を見つけさせる。 ・内容（2）イの「世界と比べた日本の地域的特色」で学習した内容から地理的事象を思い出させる。 ・（個人での活動）→（グループでの活動）→（クラス全体での活動）というように、徐々に学習集団を広げていく。 ・ワークシートN o 2では、それぞれの資料からどのようなことが読み取れるのか記入させ、資料読み取りの技能を高めていく。 ・地理的事象はワークシートN o 3の白地図に記入させ、地名と位置を確認させていく。 ●グループでの活動とクラス全体での活動では、互いの発見を発表し合い、それが中国・四国地方の地理的事象として正しいかどうか話し合わせる。 ◎地図帳やこれまでの学習内容から、<u>中国・四国地方の地理的事象</u>を読み取ることができる。 （技能・ワークシートN o 1、2、3）
	2	・都道府県名と県庁所在地名 ・歴史（通信使、西回り航路など） ・地形（中国山地、四国山地など） ・気候（日本海側、瀬戸内、太平洋側） ・人口（過疎化など） ・交通（中国自動車道、本州四国連絡橋など） 山がちな地形、過疎化の進行、交通網の発達など	
課題追求	3	○エキスパート活動（5人×8班） A：農林水産業 B：人々の生活 C：過疎地域 D：工業	中核とした事柄を他の事象と関連づけて追究する段階 考察の仕方 「他地域との結びつき」 学習課題 「交通・情報網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか？」 ・資料については、教員が事前に準備しておく。 ・個人で資料の読み取りと考察をさせた後、グループで話し合いや情報交換をさせる。（個人→グループ） ●分からない点については、グループ内で教え合いや調べ合いをする。 ・各班にタブレットP Cを一台用意し、分からないことを調べさせる。 ・ワークシートには、資料から読み取れること（事実）と、そこから考えられること（考察）を分けて書かせる。 ●自分の言葉で説明できるように、ジグソー活動での発表練習をする。 ◎資料を意欲的に読み込み、課題解決のために自分の責任を果たそうとしている。 （関心・観察、エキスパート資料、ワークシートN o 4）

整 理	4	追究の過程や結果を表現する段階	
		○ジグソー活動	・各エキスパートからの報告は時間を区切って行う。 (5分×4人、質疑応答も含める) ・各エキスパートからの報告を受けて、グループでマインドマップを作成させる。 ●何が必要で有用な情報なのかを、話し合いながら作成する。 ●自分たちの言葉で説明できるように、クロストーク活動の発表原稿をつくる。 ◎自分の担当したエキスパートについて責任をもって発表すると同時に、マインドマップ作りに積極的に参加している。 (関心・観察、ワークシートN o 4)
		○クロストーク活動	
	5	「5 本時の学習」を参照	
	6	○ミニレポートの作成	
		交通・情報網の発達による産業の変化、人々の移動の変化、過疎地域の新たな取組など	・マインドマップを基に、中国・四国地方の地域的特色を、地図と文章のミニレポートにまとめさせる。 ・マインドマップに書かれた事柄を、思考スキルを参考にし、有機的に関連づけながらまとめさせる。 ・良い作品は、書画カメラを用いて発表させる。 ●地域的特色を示す地図とその説明となる文章にする。 ◎中国地方の地域的特色について、地図と文章でまとめている。 (思考・ワークシートN o 5) (技能・ワークシートN o 5)

5 本時の学習

(1) 目標

ジグソー活動で作成したマインドマップについて、そこに書かれた地理的事象の特色や事象間の関連について、思考スキルを用いながら、自分たちの言葉で説明できる。

(2) 展開

8 ページ参照

(3) 評価する状況 (A : 十分満足できる B : おおむね満足できる)

A : マインドマップに書かれた地理的事象の特色や事象間の関連について、比較、分類、帰納などの思考スキルを用いて、自分たちの言葉で分かりやすく説明している。

B : マインドマップに書かれた地理的事象の特色について、教科書の言葉などをもちいて分かりやすく説明している。

(4) 板書計画

課題：交通・情報網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか？

今日の活動

- 1 発表練習（15分）
- 2 発表（25分）
 - 前半 1～5班（5分×2回）
 - 後半 6～10班（5分×2回）
- 3 振り返り（5分）

(参考) 思考スキル一覧表

対比する	複数の物事を比べ、共通点と相違点を明らかにする
比較する	ある尺度を用いて比べ、優先順位を付けたり、善し悪しを判断したりする
分類する	情報をグループ分けし（グルーピング）、グループに名前を付ける（ラベリング）
順序立てる	視点や観点をもって順序付けする
理由づける	意見や判断の理由を示す
筋道立てる	因果関係をはっきりさせ、原因から結果を順序立てて説明する
変化をとらえる	視点や観点を定めて変化を記述する
見通す	行為の効果や影響についてのイメージをもつ
仮定する	ある状況を想定することで、事象をより明確にとらえる
関連づける	学習事項同士や学習事項と実体験・経験をつなげて示す
構造化する	順序や筋道、部分同士の関係を計画する
広げてみる	物事についての意味やイメージ等を広げる
焦点化する	重点を定めたり軽重をつけたりして注目する対象を決める
応用する	既習事項を用いて課題・問題を解決する
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ
多面的にみる	多様な視点や観点にたって対象を見る
推論する	根拠にもとづいて先や結果を予想する
類推する	AとBの間に類似点があることを根拠にして、Aがある性質をもつ場合にBもそれと同じ性質をもつであろうと推理する
具体化する	学習事項に対応した具体例を示す
抽象化する	複数の事象をその共通点に着目して1つの概念で表す
帰納	複数の事象から、共通する特徴を見出し、結論を推測する 色々な事例を集め、それらの共通点を見つけて、そこから一般論を導く
演繹	一般的に認められた「前提」から、「事実」を挙げ、個別の「結論」を得る 帰納法の逆で、一般論や法則などから結論を導く

※この表は、以下の2つの資料から引用して作成した

新潟大学教育学部附属新潟中学校

「この“思考スキル”で高める思考力・判断力・表現力」（明治図書）

財団法人パナソニック教育財団「平成23年度 先導的実践研究助成」

「思考スキルに焦点化した授業設計のためのパンフレット」

5 本時の学習

(2) 展開

過程	学習活動と学習内容	・指導上の留意点 ◎評価規準・方法 ●言語活動の充実	資料
導入	○リズムメモリー (2分) ・県庁所在地名 ○本時の授業の説明を聞く	・全員が立ち、ジグソー班で一人ずつ中国・四国地方の県庁所在地名を言っていき、終わったら座らせる。 ・学習活動とそれにかかる時間を示し、見通しをもたせる。	
展開	○発表練習(15分) ○マインドマップを発表する。 (前半5分×2回) (後半5分×2回)	・発表原稿を見ないで言えるように練習させる。 ・発表の際は4人で役割分担をさせ、必ず全員が説明する場面を設けさせる。 ●事象の特色や事象間の関連について、思考スキルを用いて分かりやすく説明する。 ・発表はポスターセッションの形態で実施させる。 ・同じジグソー班の人がいないように、発表場所に移動させる。 ●聞き手には、事象の特色や事象間の関連など、分かっていることでも質問させ、発表者の説明が自分の理解とどのように異なるか比較させる。 ◎マインドマップに書かれた地理的事象の特色や事象間の関連について、比較、分類、帰納などの思考スキルを用いて、自分たちの言葉で分かりやすく説明している。 (思考・観察、ワークシートNo4)	・マインドマップを書いた発表用ボード ・ワークシートNo4
まとめ	○発表で聞いたことをワークシートに記入する。	・ワークシートに、他のグループの発表で新たに分かったことと分からないこと、他のグループのよい点など記入させる。 ・よい発表について、どのようなところがよかったのか、全体の前で賞賛する。	

課題 「交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか。」

問1：促成栽培とはどのような栽培方法か。

資料1、2から読み取れること（事実）をもとに考えよう（考察）。

ビニールハウス、出荷時期、
価格に着目！



資料1 高知平野のようす



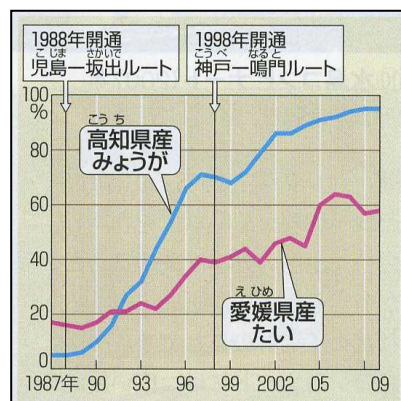
資料2 大阪市中央卸売市場でのピーマンの生産県別入荷量

問2 高知平野で促成栽培が盛んな理由として、気候以外にどのような条件があるのだろうか？資料3から読み取れること（事実）をもとに考えよう（考察）。

問3 資料4からどのような変化が読み取れるか（事実）。また、なぜそのような変化が起きたのか（考察）。



資料3 高知県産野菜の輸送形態と主な出荷先への輸送手段



資料4 大阪市中央卸売市場における四国地方の農産物・水産物のシェア推移

橋の開通がポイント！

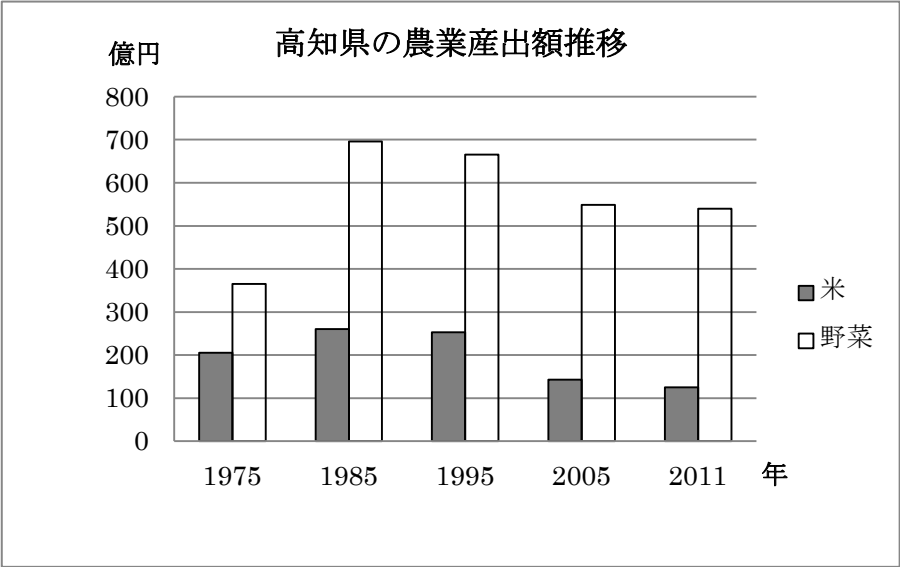
（参考）南四国の高知平野では、野菜の促成栽培が盛んに行われています。しかし、近年は全国的な交通網の整備や、栽培技術の発達によって、他の生産地との競争が激しくなりました。そこで、栽培する野菜の種類を多くしたり、効率的に出荷するために流通センターを整備して市場の情報を集めたりしています。また、農薬を減らすことによって安全性を高めるなど、他の生産地との競争に負けないような野菜作りを行っています。

瀬戸内海では穏やかな海域が多く、養殖に適しています。特に、広島産のかきや愛媛県産のまだいの養殖は、全国有数の生産量をほこります。

エキスパートA

交通・情報網の発達と農業（補助資料）

高知県は一年を通して温暖な気候のため、昔から1年に2度米を作る二期作が盛んでした。戦後も食糧不足が続いた1960年代までは盛んに二期作が行われていましたが、1970年代以降は米の消費量が減り、政府による生産調整が行われ始め、促成栽培が農業の中心になっています。

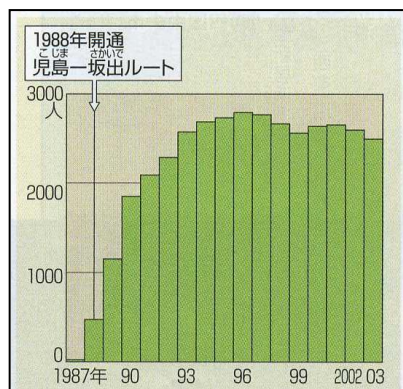


エキスパートB

交通・通信網の発達と人々の生活

課題：交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか？

問1：資料1、2からそれぞれどのような変化が読み取れるか（事実）。また、なぜそのような変化が起きたのか、資料3も参考にして答えなさい（考察）。



資料1 本州と四国地方の間の通勤・通学者の推移

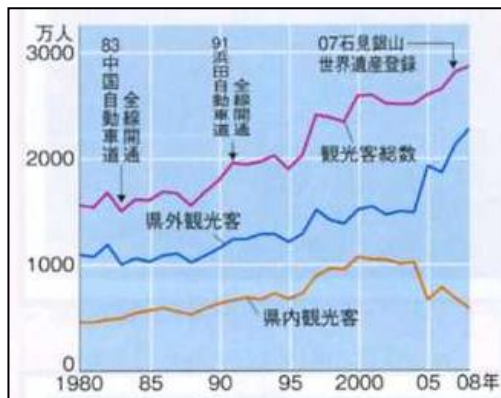


資料2 本州-四国間を結ぶ高速バスの輸送人員の変化

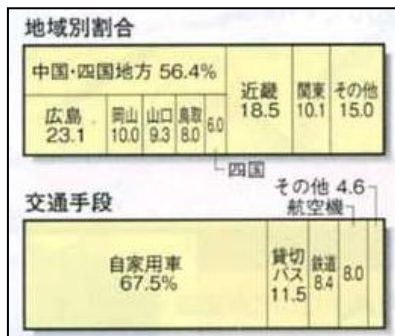


資料3
本州・四国連絡橋のルート

問2：資料4からどのような変化が読みとれるか（事実）。また、特に「県外観光客」がそのように変化した理由について、資料5を参考にして答えなさい（考察）。



資料4 島根県を訪れる観光客数の変化



資料5
島根県に県外から訪れる観光客の地域別割合と交通手段

課題：交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか。

徳島県上勝町は1986年から地域の野山に生えているもみじや柿などの葉を料理の「つまもの」として商品開発し、全国の料亭や旅館に売り込みました。やがて注文を受けるようになり、会社を設立して、現在では300種類を超える「つまもの」の生産販売をしています。



資料1 つまものの収穫



資料2 包装作業



資料3 出荷状況の確認

毎日の出荷状況の確認は各農家に設置されたパソコンで行います。他の人がだれくらいの量を出荷して、どのくらいの売り上げをあげているかも表示され、働く人たちのはげみになっています。



資料4 高齢者でも使いやすいように設計されたマウス

花や葉を収穫して町を元気に

「いろどり」で働く
針木ツネコさん

「いろどり」の事業には200人くらいの人が参加しており、料亭などで使用されるつまものや、料理にそえられるもみじなどを全国に出荷しています。軽くてきれいな花や葉を収穫して売ることなので、高齢者でも働くことができます。市場の休みの前日以外は毎日仕事ですが、働いた分だけお金になる楽しみがありますね。でも、一番の楽しみは、この仕事をとおして多くの人たちと交流や会話ができることです。

「いろどり」の取り組みの成果もあって、上勝町役場には移住を希望する人からたくさんの問い合わせがあるそうです。ほかの地域の人から魅力ある町だと思われるのは、うれしいことです。

資料5 「いろどり」で働く人の話

問1：上勝町の取り組みについて分かること（事実）とそこから考えられること（考察）を書こう。

※人々の生活の変化に着目！

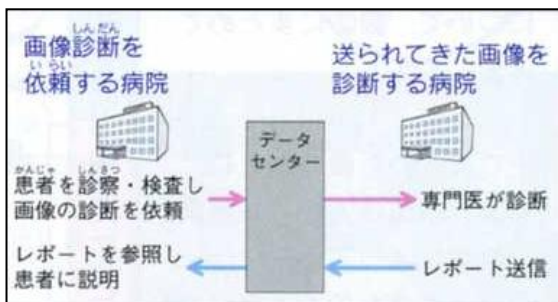
香川県では、情報通信ネットワークを医療現場に取り入れて、過疎地域の医療向上に努めています。



資料6
送信されてきた患者の画像を見て診断する医師たち
香川大学医学部付属病院には、県内の他の病院から患者の診断用画像が送信されてきます。専門医がパソコンの画像を見ながら診断を行います。

問2 香川県の過疎医療の取り組みについて分かること（事実）とそこから考えられること（考察）を書こう。

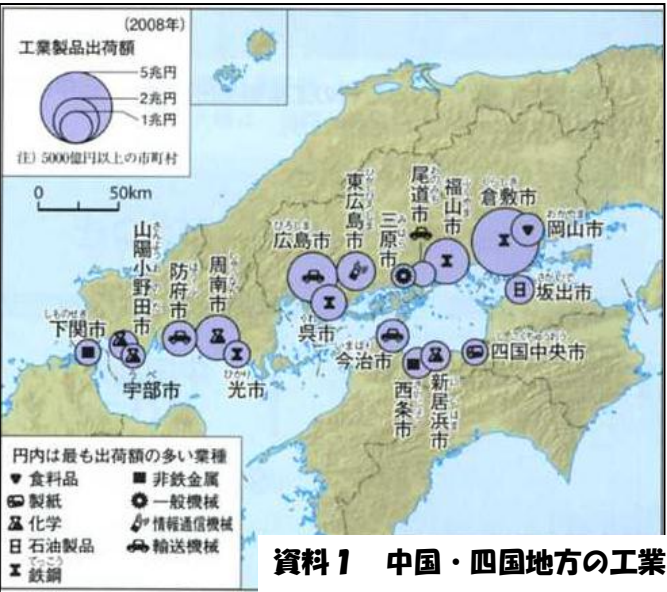
※人々の生活の変化に着目！



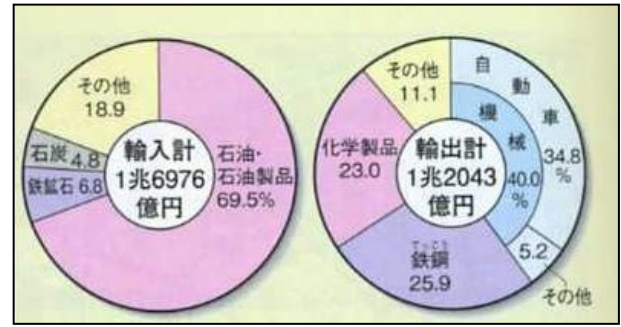
資料7
香川県の遠隔医療ネットワークのしくみ
画像の他、患者を専門医や専門施設のある病院に紹介しています。

課題：交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか。

問1：資料1から瀬戸内工業地域の特色として読み取れること（事実）を書こう。

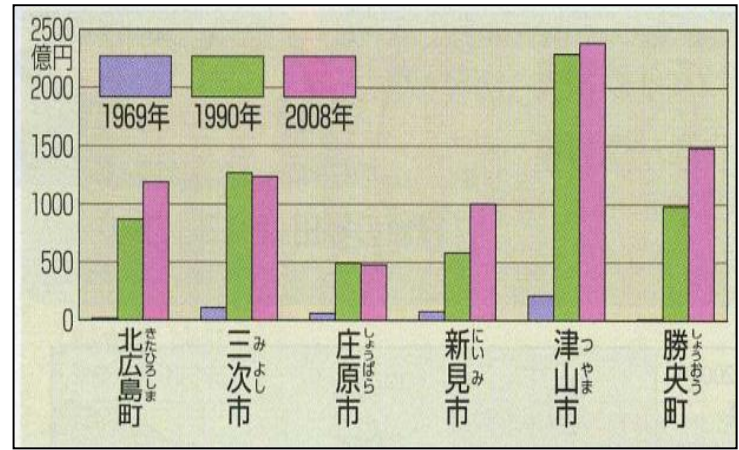


問2：なぜそのような特色があるのか。倉敷市水島を例に、資料2から読み取れること（事実）をもとに考えよう（考察）。



※ 立地条件にも着目！

問3：資料3から読み取れること（事実）を書こう。また、なぜそのような変化が起きたのか、市町村の位置を地図で確認しながら考えよう（考察）。



課題：地図帳P 83～86を見て、中国・四国地方の地理的特色を発見しよう！

(1) 自分で発見！ (自分で発見したことを書こう)

(2) グループで発見！ (自分の発見にはない、友達の発見を書こう)

(3) グループでの結果！

話し合いを行い、中国・四国地方の地理的特色として正しいものにラインマーカーを引こう！

(4) クラスで発見！ (自分たちのグループにはない、他のグループの発見を書こう)

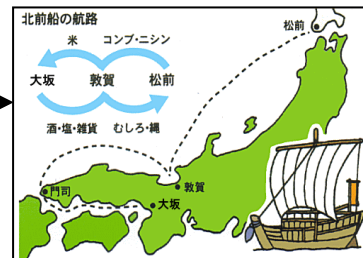
1 都道府県名と県庁所在地

No 3 白地図に記入！

2 位置と歴史

都の置かれた近畿地方と九州地方や大陸とを結ぶ地域

→瀬戸内海は江戸時代、_____や_____の重要な経路



3 地 形

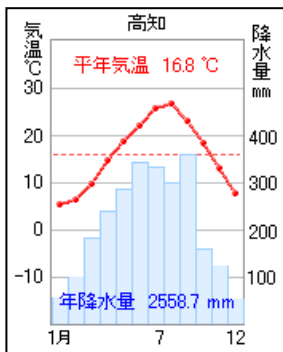
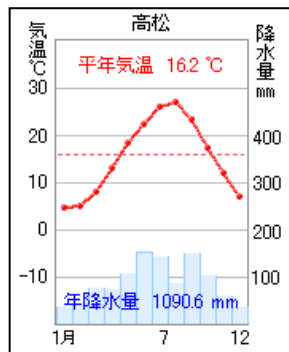
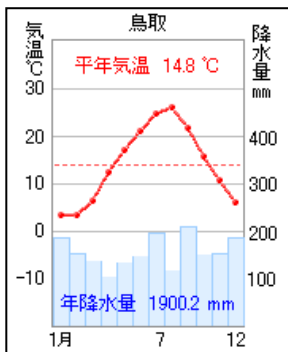
○山地・・・低くてなだらかな_____山地、高くて陰しい_____山地

→中国山地の北側を_____、瀬戸内海に面した地域を瀬戸内、四国山地の南側を_____という

また、中国地方の中国山地の北側を_____、南側を_____ともいう

No 3
白地図に記入！

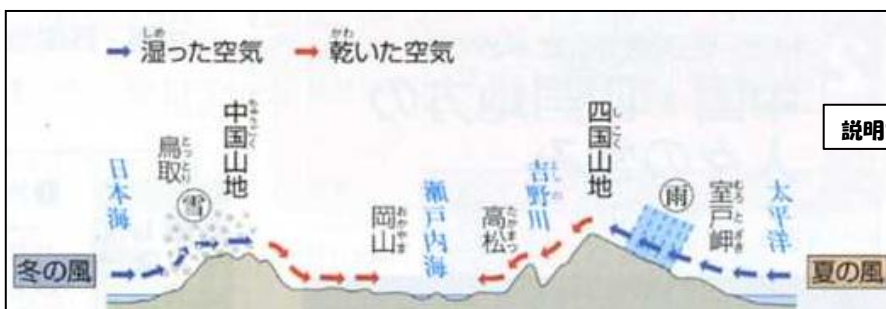
4 気 候（どのような違い、特徴がある？）



香川県に多く見られるため池

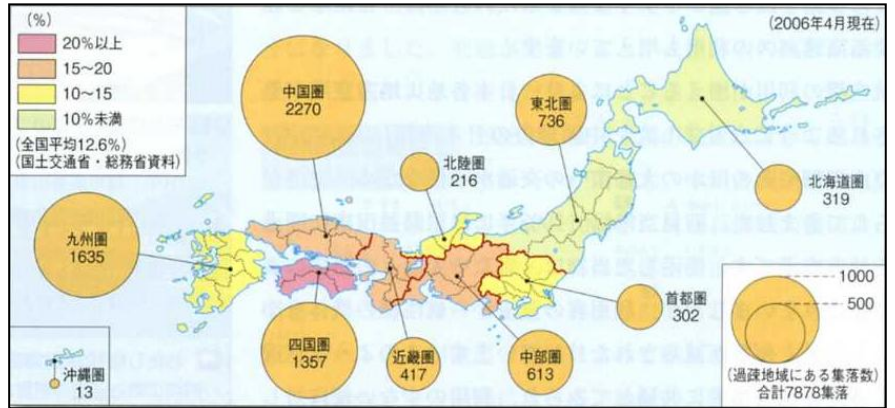
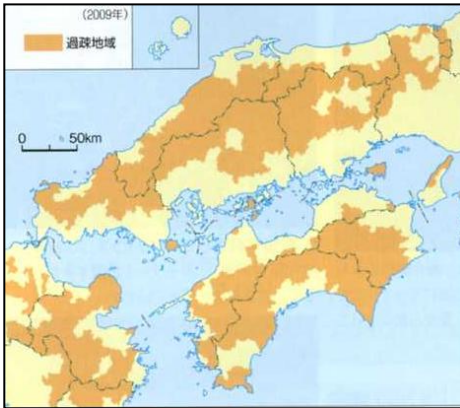
なぜ

このような違いが出る理由は？



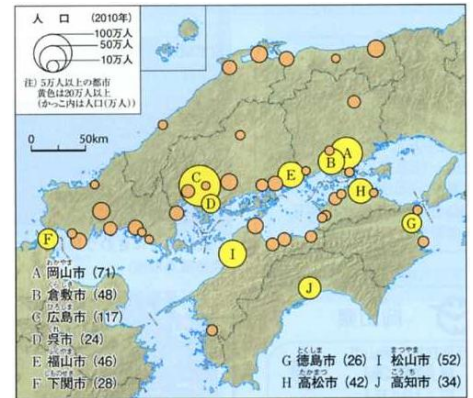
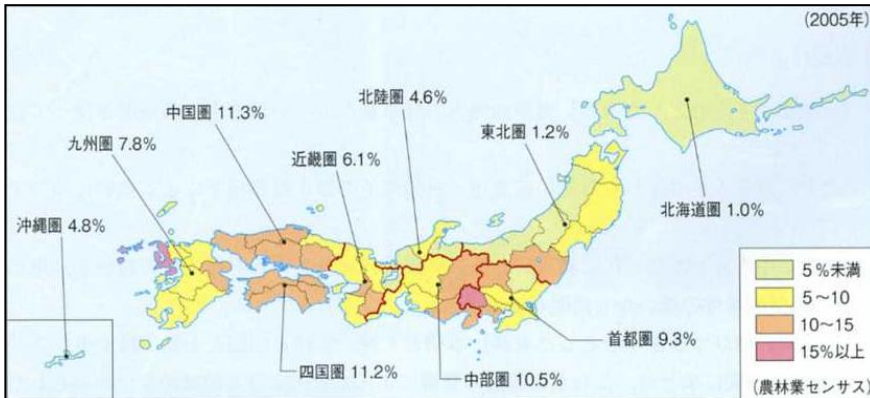
説明すると

5 人口



①中国・四国地方の過疎地域

②日本各地の限界集落数とその割合



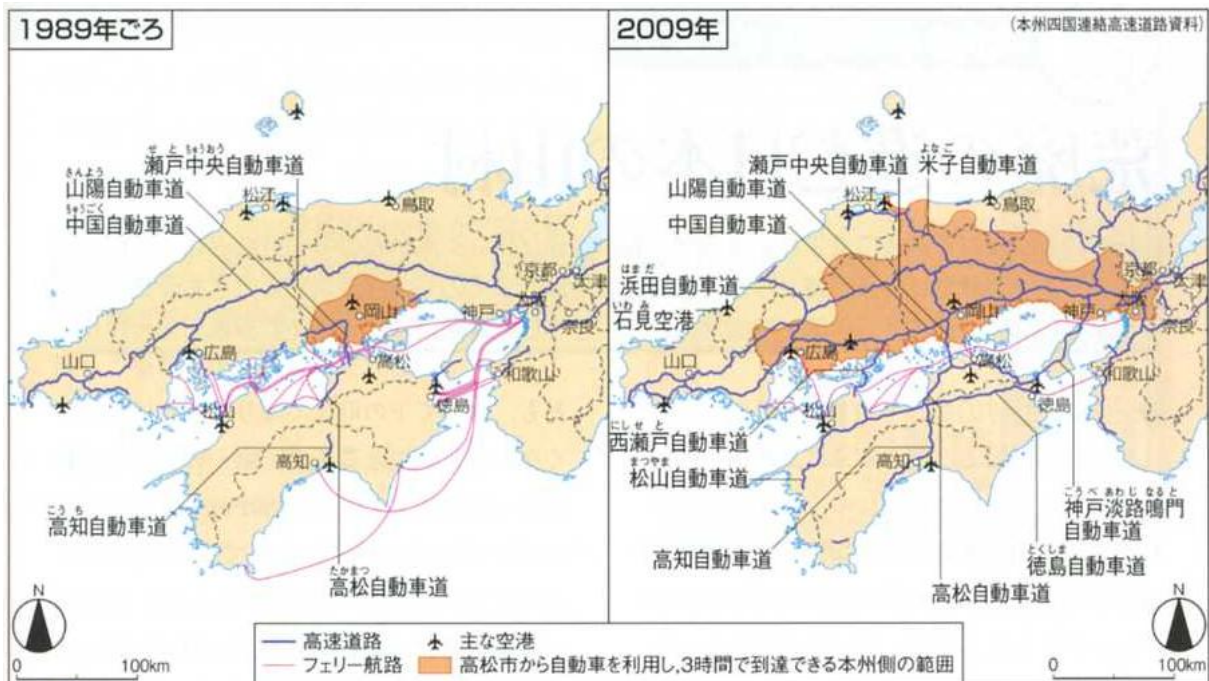
③耕作放棄地の占める割合

④中国・四国地方の主な都市

上記の資料から分かること

- ①→ _____ ②→ _____
- ③→ _____ ④→ _____

6 交通



中国・四国地方の主な交通網の変化

上記の資料から分かること



課題：交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業はどのように変化したのか？

エキスパートA：農林水産業

エキスパートB：人々の生活

エキスパートC：過疎地域

エキスパートD：工業

私は（ A ・ B ・ C ・ D ）のエキスパートです。

（１）ジグソー活動用発表原稿・メモ（課題に対する答え）

--

（２）ジグソー活動用メモ

☆各担当者からの報告をキーワードでまとめよう！

☆分からないことがあったら、積極的に質問しよう！

エキスパート（A・B・C・D）	エキスパート（A・B・C・D）	エキスパート（A・B・C・D）
担当者：	担当者：	担当者：
メモ（キーワード）	メモ（キーワード）	メモ（キーワード）
評価（５・４・３・２・１）	評価（５・４・３・２・１）	評価（５・４・３・２・１）

(3) クロストーク（ポスターセッション）用発表原稿・メモ（課題に対する答え＝中国・四国地方の特色）

(4) クロストーク（ポスターセッション）の振り返り

	分かったこと	分らないこと	よかった点	評価
班				5・4・3 2・1
班				5・4・3 2・1

組 番 氏名

[illegible]

組 番 氏名